

非水百化譜

第十輯

大正  
10 4.13  
内交



始



非水百花譜第十輯目次

かのこゆり (鹿子百合)  
 のうぜんはれん (凌霄葉蓮)  
 うめ (梅)  
 じゆずだま (珠數玉)  
 せんになさう (仙人掌)

かのこゆり (鹿子百合)

學名 *Lilium speciosum* Thunb.

異名 おきなゆり、かのこ、しらたまゆり、どようゆり、たきゆり。

科名 百合科 (Liliaceae)

多年生植物にして地下に鱗莖を生ず。鱗莖は圓形を呈し帯白黄色に幾分紫色を帯び苦味強くして食用に適せず。春期芽を發し二三尺の高さに生育す。廣披針形の平行脈葉を互生し上部の葉腋には球芽を生じ繁殖の用に供せらる。夏期梢頭數梗を分ちて美しき花を着生す。花は六個の花蓋より成り白色にして鮮紅の刺毛状突起の星點を有し反卷して下方に向ひ開く。爲に雄蕊は著しく花外に突出す。香氣なし。花後胞背裂開となす所の蒴果を結ぶ。次の變種あり。

赤鹿の子 (var. rubrum) 葉は潤大にして性强壯、鱗莖大きく鱗片粗厚にして黄色を呈す。

花は淡紅色地に紫紅色の突起狀星點あり、瓣端色薄く白色を帯ぶ。

白鹿の子 (var. album) 葉葉細小、軟弱にして淡綠色を帯び花形小なり。花純白にして淡黄色の斑點あり。基部に近く瘤狀突起を生じ褐色の筋を有す。花瓣の反卷甚し。

丸葉鹿の子 (var. unifolium) 葉形丸く倒卵形を呈し花瓣前者反卷せず。花色濃紅にして光澤あり、縁邊に近づくに従ひ淡色となり黒紅色の突起狀星點あり。

峯の雪百合 (var. pedunculatum) 雪山百合とも稱し筒形始と白鹿の子と同一なれど葯の黄色なる葉の先端鈍き副味を有するを異りとなす。

本國 大正九年八月四日東京に於て寫生自然大

附圖 (一)花の側面、(二)花の正面、(三)印葉

寫真 大正九年八月東京に於て著者撮影





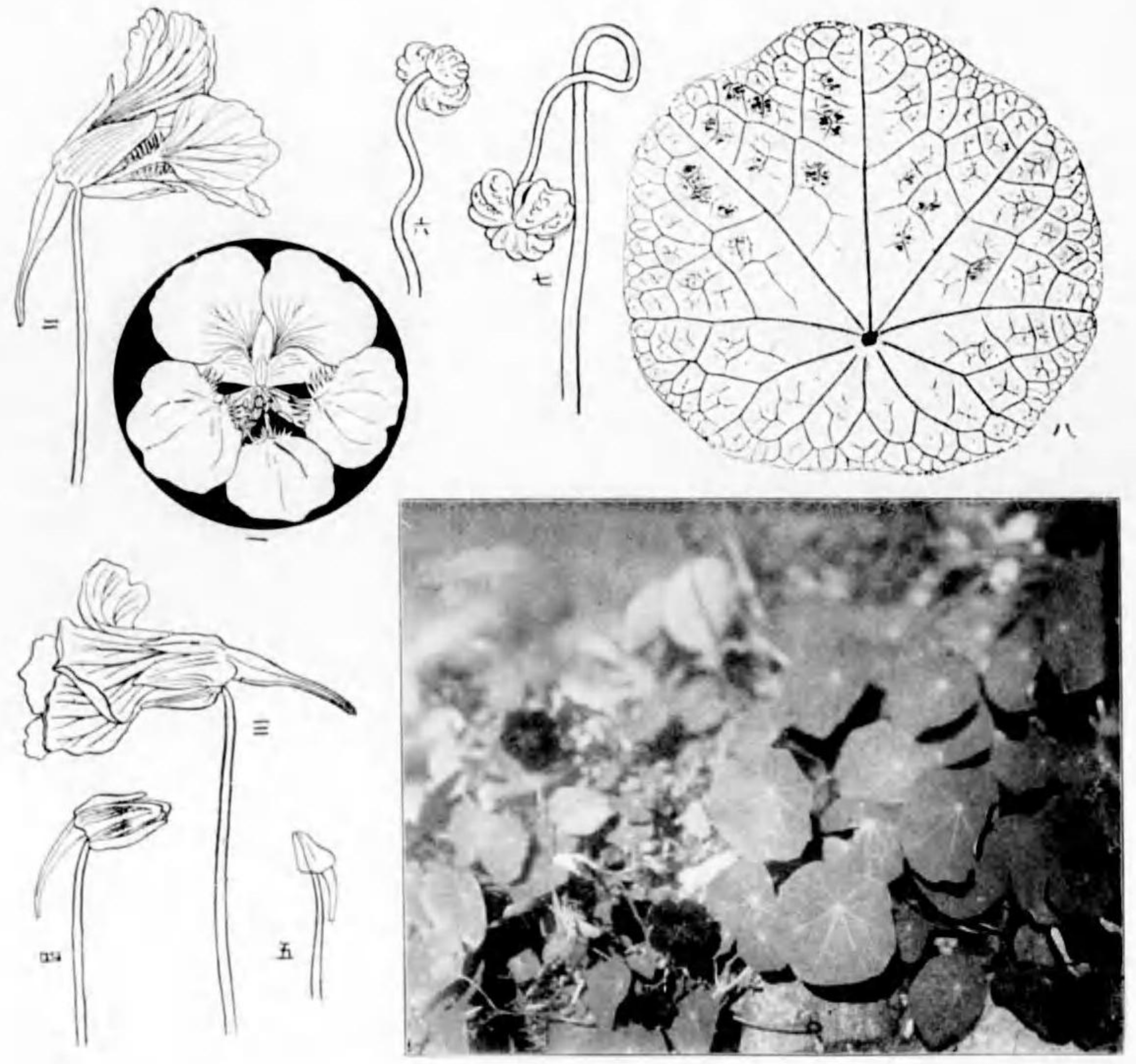
のうぜんはれん (凌霄葉蓮)

學名 *Tropaeolum majus* L.  
 異名 きんれんくわ  
 漢名 金蓮花  
 英名 Nasturtium, Indian Cross.  
 科名 金蓮花科 (Tropealaceae)

南米ペリウ地方原産の草本にして莖はマダガスカに似たる味と鋭き香を有する多汁に富み、霜々透明なるが如く見れば白粉を以て被はる。多くの枝を分ち紫緑性なり、葉は下面中央部に於て長き葉柄に支へられ、形は楕圓く淺き缺刻を有する楕圓にして葉と同じく白粉を被ひ、蓮の葉に似たり。又葉脈の先端には排水組織ありて露に及ぶ早朝、葉縁に水滴の滴るを見る。葉柄は長さ六七寸を有し卷屈をなし觸接刺激に感應す。初夏の頃、葉腋より長き花梗を出し、花を開く。花は兩性にして左右相稱、幼は五個より成り覆瓦状をなし、其の後方は細長き距をなし蜜を貯ふ。花筒は五個あり覆瓦状にして上方二片は圓長蓋状、爪に暗紫の線あり、下方の三瓣は頭圓く、爪狭長にして邊に毛齒状の片あり。原種は黄色にして基部に紅色點を有すれど今は乳白色より黒紅に至る各色を有するに至れり。雄蕊は八個にして互に分離し、葯は側方に裂開す。子房は三個の合一本心皮よりなり上位なり。花柱は一本にして柱頭は三分す。胚珠は各室の内角に一個ありて懸垂し、珠乳は外上方を向く。果實は一個の種子を有する三個の閉果をなし、種子には胚乳を有せず。胚は大なり。花の美しさに依り主として觀賞用として栽培せられ又若き葉、芽は香辛料として食膳に供せらる。

學名なる *Tropaeolum* は *Tropaeum* (= *Tropis*) より來りしものにして葉の形の楕圓に似、花の距に似たるより希臘の戰勝に因みて附せられたるものにして英名の *Nasturtium* は *マダガスカ* (*Nasturtium album*) に似たる香氣を有するが爲名附けられたるなり。

本圖 大正七年六月二十九日東京に於て寫生(自然大)  
 附圖 (一)花の正面(二)三花の側面(四)五(六)七(七)果實(八)印葉(全部自然大)  
 寫眞 大正九年十月越後赤倉温泉場に於て著者撮影





う め (梅)

**學名** Prunus Mume Sieb. et Zucc.  
**異名** 春告草、初名草  
**漢名** 百花魁、世外佳人、清友、東園、止渴、含酸子、鼎實、嘉實、玉端、好文木、氷姿

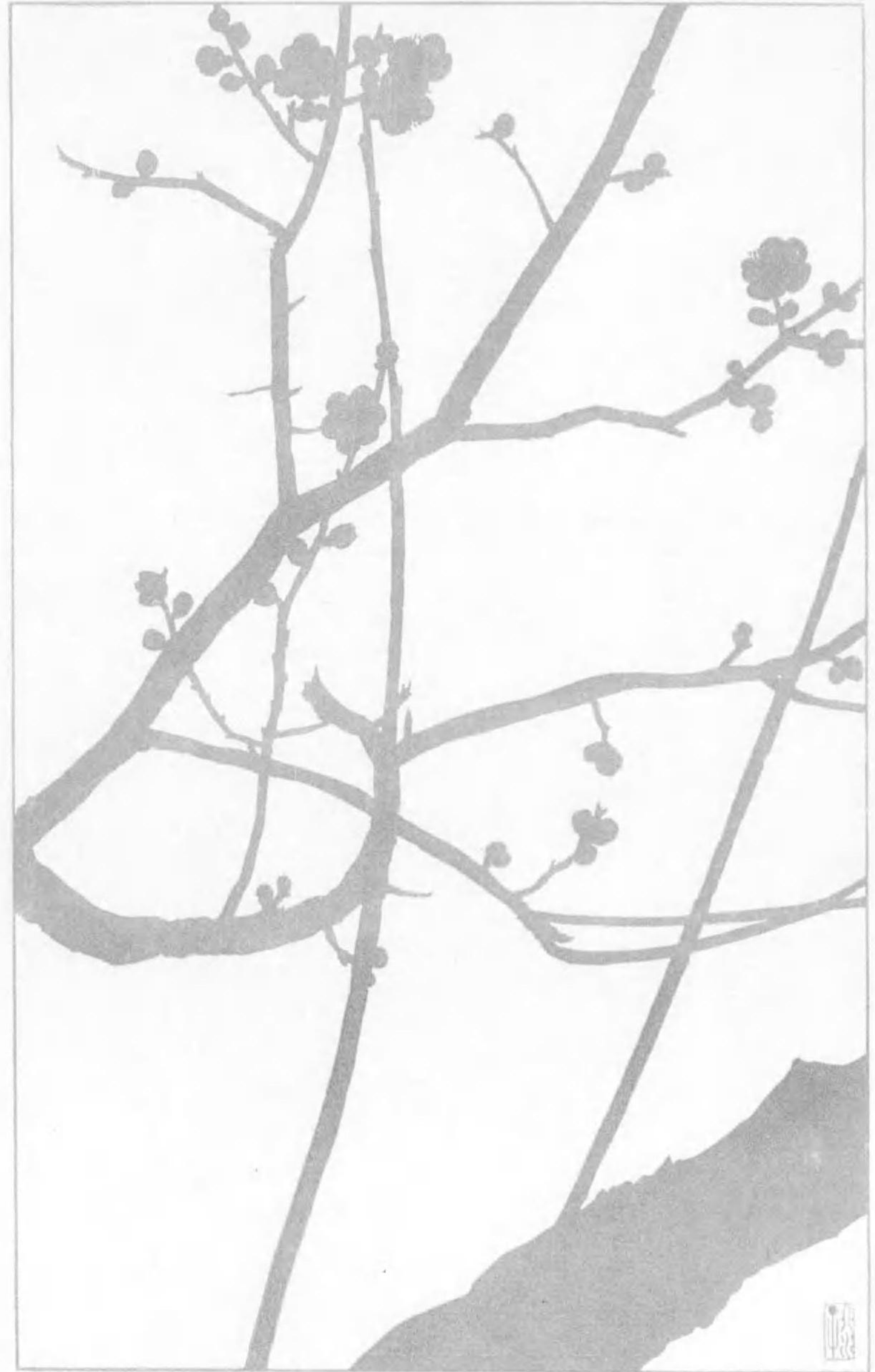
**英名** Plum.  
**科名** 薔薇科 [Rosaceae]  
**花言葉** 高潔

亞細亞原産の落葉喬木にして高さ三丈に達し、雅致に富める樹枝を生ず。枝端多く尖り、針に似て若枝には單一葉を生ず。葉は卵形、先端尖り縁邊に鋸齒を有す。又明瞭なる托葉を有し、葉柄、葉縁又其の中間に數個の蜜腺ありて蟻を誘引し、毛蟲の害を防ぐ。  
 早春寒を冒し葉に先ちて高潔にして佳香ある花を開綻す。本邦には支那より渡來せしもの、如くなれど其の年代等は詳ならず。凡そ一千有餘年の昔ならむと思考せらるれど今は各地に栽植せられ、殆ど野生の状態となれる所からず。  
 普通種は灰白色單瓣のものなれど、古來觀賞用として培養せられし結果、各種の改良種を生じ色も雪白、淡紅、紅色、濃紅の各種あり。一重の他八重のものに特に大實の實用種も育成せられたり。今其の主なるものを擧ぐれば  
 消梅(小梅、信濃梅)、各玉梅(早梅、早咲)、豊後梅(肥前梅、鶴頂梅)、野苧梅(花座論)、重葉梅(實座論)、黃香梅(散山白、黃紅梅、百葉油梅、千葉黃梅)、黃金梅、紫花梅(紫梅、蘇枋梅)、茶青梅、慈宿梅、八房梅、養老梅、冬梅、六瓣梅、軒端梅等。  
 以上の如く多數の品種ありて樹形にも立性と枝葉性の別あり、花瓣も太薄あり細薄あり、中には寒乃婉麗に傾けるものすらあり。  
 普通品なる野梅は花瓣五個、雄蕊一個、無數の雌蕊を有し青酸性の香氣を發す。二月下旬花開き六月結實す。果實は所謂石果にして中果皮は肉質となりて食用に供せられ、内果皮は細胞硬化して厚膜細胞となり一見恰も種殼の如き觀をなせど眞の種子は此の中に存在す。即ち食用部は子房壁の部分なりとす。  
 又眞の種子は有毒にして之を食すれば青酸中毒を起す。



本圖 大正八年三月十七日東京に於て寫生  
 (自然大)  
 附圖 (一)花の正面 (二)花の側面 (三) (四)  
 壹(五)印葉(全部自然大)  
 寫眞 年月不明、武藏青梅に於て筒井年峰氏  
 撮影





じゆずだま (珠數玉)

學名 *Coxi Lacynna Jobi L.*

異名 すずこ

漢名 川穀

英名 Job's Tear

科名 禾本科 (Gramineae)

東印度原産の一年草にして莖は叢生し四五尺に生育す。空虚なる稈よりなり  
 關節を有せり。葉は葉上に二列をなして互生し、細長にして先端尖り其の基  
 部は鞘状を呈して葉を包めども葉片と反對せる側に於て全部裂開す。

夏秋の候葉腋に短梗を出して花を生ず。雄花は單生にして雌雄共に穗状花序  
 をなし、小軸は短くして一個の花を有し且つ花上に抽出せず。稀に二個の花  
 を有する事あるも下方のもの不完全なるを常とす。而して熟すれば關節を  
 なし穗状花の軸より脱落す。又腋節は點狀にして爲に雄花は背より壓迫せら  
 れ扁平となるか又は圓柱状をなす。雌性穗状花序は花梗の頂端にあり、雌性  
 穗状花序は其の下方に位し、退化して二の雄花より成り卵形乃至球形象牙  
 質の包にて包まる。

果實は穎果にして灰白卵形をなし、果皮は胚嚢質にして堅し。而して澱粉  
 質に富める體多なる内胚乳を有し胚は内方に於ては胚乳の前側及び基底に接  
 し、外方に於ては只外果皮によりてのみ被はれ一般に小さく眞直なり。  
 野外に自生するものあれば又栽培する事あり。此の穎果は食用となり或は絲  
 を貫き珠數の如くにして兒童の玩具となす。

備考

一、本種に *Coxi amata Lour.* の學名を當つるものあり。

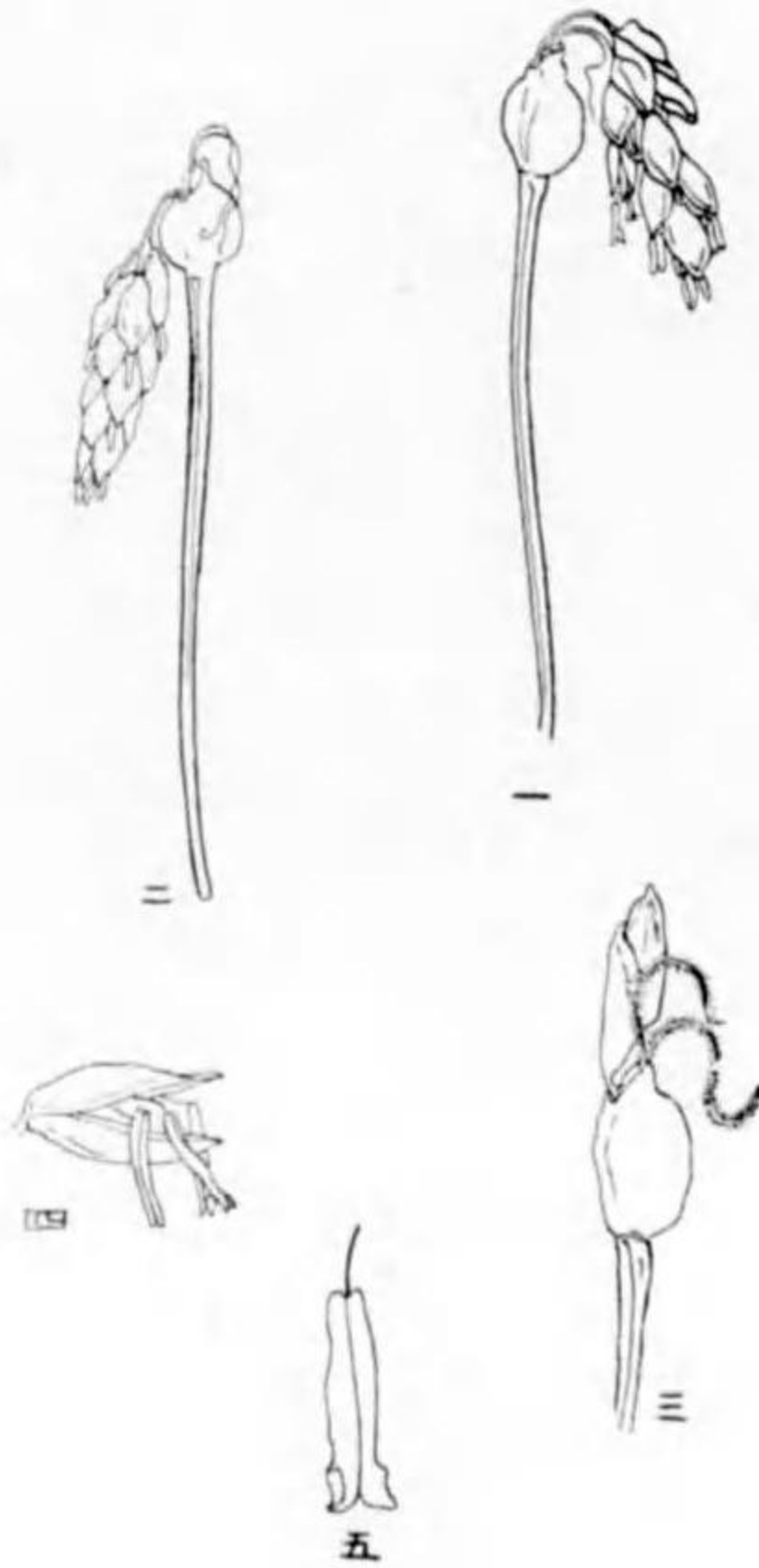


(大然自)生寫て於に村海太房安日三月十年八正大 圖本

花雄(四)形全の花蕊(三)(大然自)形全の花蕊(二)(一) 圖附

(圖大擴上以)雄雌(五)

影撮者著て於に村海太房安月十年八正大 眞寫







珠  
 杉浦非水  
 大食平兵衛  
 仁田三郎  
 雄山巴之吉  
 丸山武  
 行  
 四國岡本町市京東

せんになさう (仙人掌)

學名 *Cleome pulchella* Thunb.

異名 はこぼれ、たかたて、うしのこぼれ、うまはこぼれ、うまのはかけぐさ。

漢名 大蓼、仙人掌

科名 毛茛科 (Ranunculaceae)

山野に自生する多年生木質の蔓性植物にして莖に微毛あり。葉は對生し疎なる奇數羽狀複葉にして三乃至七個の卵形又は心臟形全縁の小葉よりなる。葉柄は俗も卷屈の如く他物に卷絡する作用をなせり。

春期宿根より新梢を生ずるを常とすれど時には前年秋既に生ずる事あり。七八月に至り白色の四花被を有する花を聚繖花序となして開く。花は六七分許りの徑を有し、美しきと奇異なるに依り人多くは花爛なりと思ふすれど單に花被と云ふべきものにして強之を考ふれば勢とも稱すべきなり。花後瘦果を結ぶ。果には長さ一寸餘の有毛花柱を具へ、種子の分布の補助をなせり。

本種には一種のアルカロイドを含有するが故に有毒にして、誤りて食せば口中腫れ痛み甚しく歯牙脱落し、甚しきは腹痛吐瀉を起し遂には死に至る事あり。又汁液を皮膚につくれば甚しく刺戟し發泡せしむ。

備考

一、*Cleome* は *Klema* より來りしものにして、*Klema* は *vine* (*branch*) の意を有す。即ち葡萄の如く卷絡するが爲なるべし。  
 一、一種 *ヘンニヤナニヤ* (*C. Parviflora* var. *at Champ. var. Makinoi*) と稱するは小葉の區分細くして腺狀披針形をなせり。

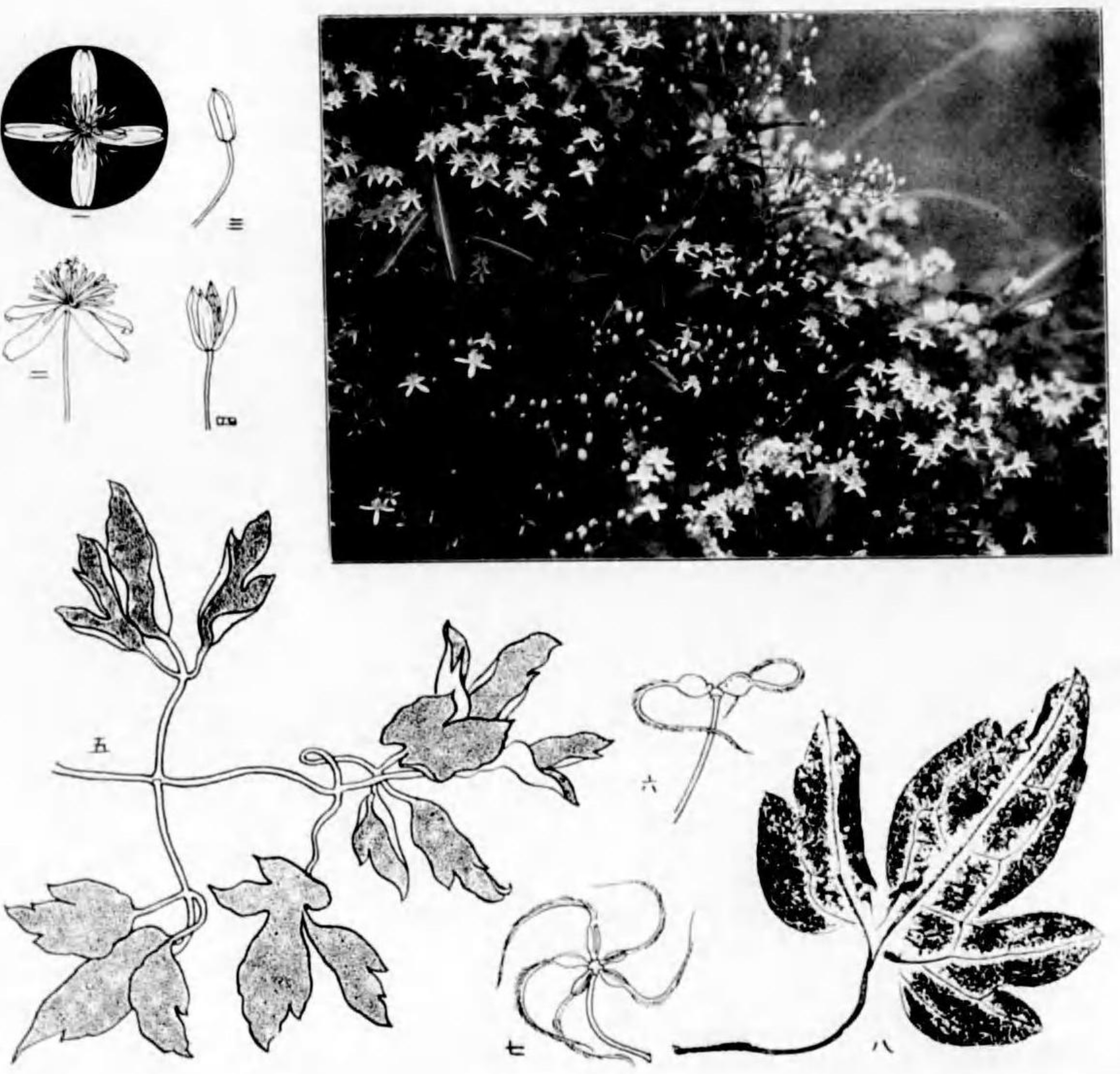
一、前掲異名その他

うまのはこぼれ、くちくさ、くつごさ、くつわよりぐさ、等の名あり。

本圖 大正九年八月二十七日東京郊外に於て寫生自然大。

附圖 (一)花の正面、(二)花の側面、(三)葉、(四)平開花、(五)葉の全形、(六)七)瘦果、(八)印葉、全部自然大。

寫眞 大正八年八月東京郊外に於て著者撮影。





大正十年八月 五頁印刷  
 大正十年八月 八頁發行  
 (五種十卷之) 定價金 四圓

「非水百花譜」第十二輯

不許複製

著者 杉 浦 朝 武  
 發行者 和 田 利 彦  
 印刷者 林 保 廣

東京市日本橋區區四丁目五番地  
 東京市日本橋區區四丁目五番地

發行所 春 陽 堂

仙 大 草  
 林 田 春  
 田 口 菊 松 摺  
 陽 堂 行  
 四 國 廣 島 東 京

大正九年四月 七日發行  
 大正九年四月 十日發行

「非水百花譜」五種十卷  
 定價全卷別五拾錢

不 許 復 製

發 行 所	著 者	發 行 者	發 行 所
	林 保 廣	和 田 利 彦	春 關 堂
	東京市日本橋區區丁日五番地	東京市日本橋區區丁日五番地	東京市日本橋區區丁日五番地

東京市日本橋區區丁日五番地  
 春 關 堂  
 電話一六一七號 大島五一

大正十年八月五日印刷  
大正十年八月八日發行  
『非水百花譜』第十二輯  
(五種十卷之) 完分 價金 四圓

不許複製



發行所  
春關堂

著作者 杉浦朝武  
發行者 和田利彦  
印刷者 林保廣

東京市日本橋區區四丁目五番地  
東京市日本橋區區四丁目五番地  
東京市日本橋區區四丁目五番地

終

